

八幡神に関する一考察

—A Study of Hachiman

2026 年 1 月

椎名 裕信

正式公開先: Zenodo

著者名: 椎名 裕信 (Hironobu Shiina)

ORCID : 009-0005-6158-3320

代表 DOI: 10.5281/zenodo.18159734

連絡先: h.shiina.contact@gmail.com

商用・非商用を問わず、事前許可のない転載・再配布・翻訳・要約等一切を禁止

本論は次に上げる拙論文（本論で「参考拙論」という）」をもとに行う宇佐神宮の祭神に関する考察である。

・『日本書紀』に見る 4 世紀末から 5 世紀後期の外交記録の一考察

DOI: 10.5281/zenodo.17474831

商用・非商用を問わず、事前許可のない転載・再配布・翻訳・要約等一切を禁止

八幡神は日本の神社の中で稲荷神と並んでもっとも一般的な神格である。

そして、八幡神を祀る八幡神社の総本社は宇佐神宮である。

宇佐神宮は一之宮に八幡大神として応神天皇（誉田別尊）、二之宮に比売神、三之宮に神功皇后（息長足姫）を祀っている。

ここからは一之宮である八幡大神が主祭神となるが、宇佐神宮での本殿の配置は二之宮を中心にすえ、あたかも主祭神であるかのような扱いとなっている。

二之宮である比売神について見ると、これは宗像社の祭神である宗像三女神と団体であるとされている。

『参考拙論』に見るように、応神天皇の年間は神功皇后の執政年であると考えることができる。『日本書紀』では応神天皇紀に次の記事がある。応神天皇紀における三十七年と四十一年の記事においては、応神天皇に仮託した形での神功皇后による呉（東晋）への使者の派遣を取り上げている。

特に『日本書紀』の応神皇后四十一年においては呉（東晋）からの職工女を連れ帰国した記事があることを示している。

原文は次のとおりである。

『日本書紀』応神天皇紀

(応神天皇) 四十一年 (略) 天皇崩于明宮 (略) 是月 阿知使主等自
吳至筑紫 時胸形大神有乞工女等 故以兄媛奉於胸形大神 是則今在筑
紫國御使君之祖也。既而率其三婦女 以至津國及于武庫而天皇崩之 不
及 卽獻于大鷦鷯尊 (略)

ここから見るように、吳（東晋）から連れ帰った4人の職工女の内一人が宗像社
（宗像大社）、三人が大鷦鷯尊（仁徳天皇）に献じられていることが記されている。

宇佐神宮の二之宮とされる比売神は宗像社の祭神である宗像三女神と同体の存在で
とされている。上記に上げた『日本書紀』には宗像社(宗像大社)に一人、残りの三人
は大鷦鷯尊（仁徳天皇）にと、いうことから宗像への一人と残りは三人という形態を
取っていることから、吳（東晋）からの職工女という括りでは同体であり、それを一
人と三人に分けた形式となっていることから、吳（東晋）からの職工女として同一の
存在とみなすことができるだろう。

商用・非商用を問わず、事前許可のない転載・再配布・翻訳・要約等一切を禁止

さらに、応神天皇四十一年には、この職工女の来日を応神天皇、すなわち応神天皇に仮託された神功皇后が待ちわびながらも崩御してしまったことが記されている。

（「参考拙論」）に記しているが、応神天皇四十一年は西暦 411 年、職工女を連れて使者が日本に帰国したのは西暦 413 年のことと想定され、この応神天皇四十一年の記事は異なる 2 年分の出来事をまとめて記載していると推測する）

これらのことから比売神とは神功皇后こと息長足姫の人間体が比売神の姿として神聖化されたのではないかと推測できるだろう。そして、神功皇后が崩御時にまで待ち望んでいた職工女が宗像社に奉納されたことで、比売神と宗像三神が同一体とされたのではないだろうか、と推論することもできると考えることができるだろう。

ここから、まず神功皇后が政務をとっていた姿を仮託した存在として応神天皇を八幡大神として一之宮の祭神となり、さらに、その執政をおこなっている姿である神功皇后が、本来は同一存在である比売神とは別の存在として三之宮に祀られる用になったのではないかと推測できるだろう。

その中で、三韓征伐並びにその後の朝鮮半島における戦闘により武神としての側面を、また、職工女を呉（東晋）から招いた事により殖産興業の象徴としての側面を、それぞれ持つようになり、それが八幡神信仰となっていくたのではないかと推測する。

商用・非商用を問わず、事前許可のない転載・再配布・翻訳・要約等一切を禁止

余談ではあるが住吉大社において神功皇后が祭神とされることについては、上記の使者の帰国は「参考拙論」にあるように西暦 413 年のことであるが、その 50 年後に当たると考えられる西暦 463 年に当たると推測される『日本書紀』雄略天皇十四年の記事には留意する必要があるだろう。

『日本書紀』雄略天皇紀

(雄略天皇) 十四年 (略) 共吳國使 將吳所獻手末才伎 漢織 吳織及
衣縫兄媛 弟媛等 泊於住吉津 (略) 以衣縫兄媛奉大三輪神 以弟媛爲
漢衣縫部也 漢織 吳織衣縫 是飛鳥衣縫部 伊勢衣縫之先也

上記のようにこの年も吳 (宋) から職工女を招いているが、このときは住吉を通ったことが記されている。このことから 50 年前に職工女を吳から招いたことが神功皇后の業績として記録されていた可能性がある。このことから住吉の地に創建された住吉大社において神功皇后を祭神として祀ることになった可能性があるだろう。

商用・非商用を問わず、事前許可のない転載・再配布・翻訳・要約等一切を禁止

参考文献

『日本書紀』 舎人親王 編